

# ウチの**お宝**ファイル



細部までこだわって再現した石井さんの愛車(城陽市上津屋)

「藤原とうふ店(自家用)」の文字が目を引く。人気漫画「頭文字D」に登場する乗用車を再現した愛車だ。「作品の世界観を大事にした」と石井翔さん(28)は、城陽市平川IIが話す。

「頭文字D」は、峠の道を自動車で走る若者たちを描いている。石井さんは中学生の頃、作品に出会い、夢中になった。主人公の藤原拓海が乗る「トヨタAE86型スプリンタートレノ」に憧れ、「いつかハチロクに乗りたい」と思うようになった。

就職し、24歳の時、京都府南区の専門店で同じ車が中古で売られているのを見た。「これしかない」とすぐに購入を決めた。中

## 作品の世界観を大切に

て感動した」と振り返る。作中数回、車の仕様が変わるが、特にお気に入りの最終巻に近い形を目指した。メーターやボンネットなど細部までこだわった。ミラー や フォグランプはなかなか同じ形がなく、見つかるのに2年かかった。

作中のせりふなどで説明がない部分についても、描かれた形や色を参考に、「この形ならこれかな」「この色ならこれしかない」と、より作品に近い部品を仕事の傍ら探した。約3年をかけ、作品に近づけることができたと自信を持つている。

街中を走ると注目を浴びる。「この車で走ると、主人公になつたような気分になれる。これだけ手間ひま掛けた車なので、これからも大事に乗りたい」と話す。

西本願寺（淨土真宗）と呼ばれる儀式専門の僧侶が突いている。今回は、10月から行われている大谷光淳門主の就任を広く内外に告げる伝灯奉告法要に合わせ、一般の人を対象に募集することにした。

法要期間中は1日2回、午前5時半と午後1時に突く。それぞれ30分前集合。1回の定員は8人、1人1打。

本願寺派本山、京都市下京区）が、境内の飛雲閣近くにある鐘を突く「梵鐘体験」の参加者を募っている。

同寺では、大みそかに煩惱を打ち消すという「除夜の鐘」は突かない。梵鐘には法要や儀式の始まりを告げる役割があり、普段は毎朝6時に始まる朝のお勤め（晨朝）の前に、式務

# マドレー染 技法復活へ

# 昭和の終わり途絶え、制作者の孫が試み

マドレー染は、糊を混ぜた染料を板の上に流して混ぜ、できた模様を生地に写し取る「糊流し染め」の一つ。中京区の友禅業者だった故日比野治三郎さんが開発した。

訪問着やスカーフなど和洋を問わず制作され、人気を博していたという。ところが、明良さんの後継者がいなかつたために技術が継承されず、制作道具なども工房に置かれたままになつて

京区。服飾史に詳しい京都女子大家政学部の青木美保子准教授と知り合ったのを機に、青木准教授らがかかわるプロジェクトの一環として、再興を試みた。

A photograph of a fashion exhibition. On the left, a mannequin torso is displayed, wearing a white dress with a vibrant, abstract print of orange, red, and yellow. To the right of the mannequin is a large, floor-length textile, possibly a kimono or a decorative panel, draped over a stand. The textile has a warm, earthy color palette with visible stitching and a flowing, organic shape. A woman with dark hair, wearing a light-colored cardigan, stands to the right of the textile, looking towards it. The background shows a room with other displays and a person in the distance.

レスに仕立てたほか、インクジェットプリントの技法を用いて別の布で日傘なども作った。展示では、こうした新しい作品のほか、明良さんの着物も並べた。淳平さんは「さまざまな可能性を追求しながら、この素晴らしい技法を次世代につないでいきたいい」と話している。29日まで（24日休館）。無料。（太田敦子）

### 心臓病患いながら染色アート

## 碾茶産地の城陽PR

## ガイドブックスイーツなど紹介

卷之三

城陽市は、市の特産で抹茶の原料になる磯茶を紹介するガイド「京都城陽でんぢゃ」を発行した。来年3月を目指して工事が進む新名神高速道路の城陽一八幡間の開通を前に、「お茶の京都の玄関口」として市の魅力をPRするのが狙い。市内の

A black and white photograph of a woman with dark hair, wearing a dark top, sitting at a table and holding a book open. The book's cover shows a landscape of tea fields under a blue sky. The title '城陽てんちやく' is visible at the bottom of the page. The woman is looking towards the camera with a slight smile.

南区・松谷さん、中京で個展――同じ病気の子に  
日本に古くから伝わる始まった。力強い輪郭と染色作  
型染めの技法で染色アートに取り組む松谷歩さん  
(29) 〔京都市南区〕の個展が22日、京都市中京  
区河原町通蛸薬師下ルの新町小で図画工作の非常  
ギヤラリー・マロニエで勤講師として働く傍ら、  
松谷さんは、向島小や新町小で図画工作の非常  
個展をきりしへている。――